

第 17 回 全国計量士大会 「発表概要」

第 17 回全国計量士大会に多くの計量士始め関係者の皆さんに、ご参加いただけますよう、案内パンフレットと計量士 3 名の「発表概要」をお届けします。

より多くの参加者が集う大会となり、円滑かつ成功裏に進められるよう、よろしく願いいたします。

なお、今大会は、福岡市「西鉄グランドホテル」で開催いたしますが、季節的に旅行・観光客が特に多い時期に当たりますので、交通、宿泊等については、出来るだけ早めに手配されますよう、お知らせいたします。

◆発表 1 「指定検定機関申請への取組みと課題」

一般社団法人福岡県計量協会 発表者 清原 一樹 計量士

○キーワード 「計量士の生計」「多様な計量士の実態」「法改正は活躍の場の創出」「九州の現状」「計量業界の活性化」

<概要>

九州在住の計量士の方たちにアンケート調査を実施した。

その結果、計量士だけで生計を立てている計量士は何パーセントだろうか？当地区の計量士は、計量管理業務はもとより、計量器の製造・修理事業と係わる仕事をしている実態が鮮明に浮かび上がってきた。

この実態を踏まえて、今回の法改正によって計量士の活躍の場はどのように変化するのだろうか？

その考察に則り、指定検定機関を有効なものとするには欠かせない計量士の姿を模索した。計量士の活躍こそが、今回の法改正ひいては指定検定機関の成功につながると信じている。

◆発表 2 「自動はかりに係る計量管理の事例」

一般社団法人京都府計量協会 発表者 吉川 勲 計量士

○キーワード 「自動はかりの校正とトレーサビリティ」「ISO9001 と自動はかりの管理」「簡便な自動はかりの評価方法」

<概要>

このたびの政省令の改正で、自動はかりに検定制度が導入されたが、検定に合格しても適正に管理されていることが保証されるものではない。

特に、ISO9001 等の国際規格では、測定機器の校正をする場合、トレーサビリティの確保が要求されるが、不確かさの表現のない基準器で行う検定ではその証明には

ならない。

ここでは、現場の管理者が簡便に自動捕捉式はかりを評価し、かつ、トレーサビリティの確保が可能となる管理ツールを紹介する。

◆発表3 「製造事業所における現場の計量管理の現状と課題」

愛知県計量士会 発表者 植手 稔 計量士

○キーワード 「ISO10012」「教育・人材育成」「適正計量管理事業所」
「グローバル化」「現場」

<概要>

愛知県計量士会は、製造業の計量管理を担当している社員計量士が会員の1/3を占めており、製造事業所の計量管理についての情報交換が重要な課題である。

そこで、計量士、計量関係者による、ものづくり製造現場の最前線における計量管理の現状と課題、取組み、トレンド、アイデア等を熱く議論した『現場の計量管理座談会』（2008年から日本計量新報に掲載）を振り返り、製造現場で実際に直面している課題、それに対応する我々計量士、計量関係者の共通の悩み、取組み内容等を総括し、先輩計量士から受継いだ、変えてはいけない事、時代の流れに応じて変えて行くべき事、これからの未来に向けて企業計量士のあるべき姿、進むべき道を探った。

以上